

山口県土木防災情報システムについて

山口県土木防災情報システムは、パソコンやスマートフォン等を利用して、山口県内の雨量、河川水位、ダム諸量等の観測局の情報等をリアルタイムに県民の皆様に配信するシステムです。

令和5年6月から、平瀬ダムのダム諸量を当システムに追加しました。また、ダムに関する情報を提供する「メール配信サービス」もありますので、以下の「メール配信サービスの登録方法」に従って登録をお願いします。

注意：メール配信サービスは無料でご利用いただけますが、通信費用は利用者の負担となります。

こんな情報を提供しています

雨量や河川水位、潮位、ダムの観測情報

県内138カ所の雨量局、114カ所の水位局、14カ所の潮位局、22カ所のダム局で観測したリアルタイムの情報を提供しています。

気象情報

(財)日本気象協会が提供するリアルタイムの気象情報を提供しています。

洪水予報

県内4水系(錦川、榎野川、厚東川、島田川)で洪水予報対象地点の水位予測を行い、洪水予報に関する情報を提供します。

土砂災害警戒情報

県内の土砂災害に関する情報を提供します。

携帯電話等への観測情報

スマートフォンや携帯電話にも、雨量、河川水位の情報を提供していますので、外出先からでも手軽に情報を見ることができます。
※表示画面は環境によって若干違いがあります。

メール配信サービスの登録方法

1	2	3	4
《携帯・スマホの場合》 トップページにアクセスし、「新規登録」又は「防災情報メール登録」をクリックし、メールサービス受付メニューから登録します。	《パソコンの場合》 土木防災情報システムホームページの「ご登録はこちら」をクリックし、空メール受付メニューから登録します。	本文には何も記入せず、指定の宛先にメールを送信します。	登録案内メールが返信されます。本文の最後にある、登録フォームへアクセスします。
		受信したい情報を設定して、登録手続き終了です。	

携帯電話を使う場合 <http://y-bousai.pref.yamaguchi.lg.jp/k/>

スマートフォンを使う場合 <http://y-bousai.pref.yamaguchi.lg.jp/sp/>

パソコンを使う場合 <http://y-bousai.pref.yamaguchi.lg.jp/>



スマホQRコード



携帯QRコード

建設中のダムカードがもらえるのは今だけ。詳細は山口県庁河川課のホームページをご覧ください。



平瀬ダムは、試験湛水を行っているところですが、令和5年4月から洪水調節を開始しています。これから秋までの大雨が降るシーズンを迎えます。山口県土木防災情報システムなどを活用し、安全な避難を心掛けてください。

錦川だより

News from Nishiki River

錦川総合開発事務所

2023.7.1
July

第37号



ダム湖名は

猿飛湖に決定!

ダム湖の名前が猿飛湖に決まりました

試験湛水中の平瀬ダムが、末永く地域の方に親しまれ、愛されるように、平瀬ダムのダム湖の名前を山口県のホームページで募集しました。

応募総数は364件（応募地域：36都道府県）で、地元関係者で構成する「平瀬ダム ダム湖名選定委員会」において審査をしていただいた結果、「猿飛湖（さるとびこ）」に決定しました。

この名前には、ダム湖に沈む景勝地「猿飛の石庭」が木谷原地区の象徴的存在で、地元だけでなく多くの人々に愛されていた素敵な場所であったことから、その名をダム湖の名前として残したいという思いが込められています。



高校生が見学に来ました

山口県立徳山商工高等学校の2年生と3年生が、令和5年5月30日にダム見学に来ました。

ダムについて学習した後、ダムの内部のトンネル（監査廊）に入って、いろいろな観測をしているところを見られました。

男子生徒とともに、未来の『けんせつ小町（建設業で働くすべての女性の愛称）』も真剣に見学をしていました。

「こんなところで働きたい！」などの感想をいただき、案内をした職員も初心を思い出す良い機会となりました。また、来てくださいね。

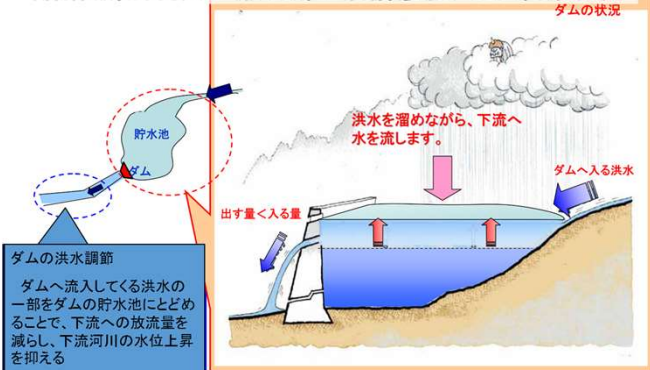


洪水調節の仕組みを紹介します

洪水調節

大雨が降り洪水になると、ダムへ流入する洪水の一部を貯水池に溜め、ダムから水を流します。

平瀬ダムは、大雨が降りダムの貯水水位が標高128.1m以上となると、ダムへ流入する洪水の一部を貯水池に溜め、ダムから水を流します。この仕組みにより、下流への放流量を減らし、下流河川の氾濫を低減することができます。



洪水調節と警報活動

洪水調節

平瀬ダムの洪水調節は、ダムへ入る洪水をしぼって、貯水池に洪水を貯めながら常用洪水吐きから放流することで行います。平瀬ダムには、2種類の常用洪水吐き（オリフィス（ゲートなし）、コンジットゲート）があり、初めにオリフィスから放流し、一定の水位まで水が貯まると、コンジットゲートからも放流を行います。



オリフィス（ゲートなし）
W4.00m×H3.8m 1門

コンジットゲート
W=4.10m×H4.20m 2門

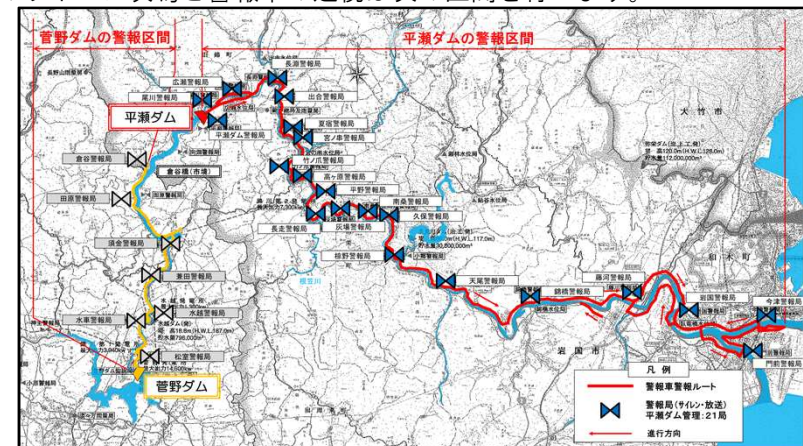
警報活動

平瀬ダムでは、次のような場合などに、放流を知らせる警報活動を行います。警報活動は、ダム警報局のサイレン吹鳴と警報車による巡視により行います。

- ダムからの放流により、下流に急激な水位の上昇が生じると予想されるとき。
- コンジットゲートから放流を開始するとき。
- 緊急放流を行うとき。

警報区間

警報局のサイレン吹鳴と警報車の巡視は次の区間を行います。



平瀬ダムが完成するまでは、菅野ダムが河口まで警報活動を行っていましたが、平瀬ダム完成後は、菅野ダムが菅野ダム～平瀬ダム、平瀬ダムが平瀬ダム～河口までの警報活動を行います。